

# 特技自慢!!

には様々な趣味・特技を  
今回はその中からご紹介します。

仲間 川畑 香さん

「編み物に夢中」

裁縫、ミシン、編み物が趣味です。今頑張っているのは、編み物です。小学校6年生からの趣味で、簡単なマフラーを編みました。今は黒のロングショール(肩掛け)を編んでいます。休みの日に作りますが、肩や首がこってしまうほど夢中になることがあります。完成した「帽子」や「マフラー」をみなと〜りで販売したことがあります。使ってもらえることがうれしく、頑張ることができます。



しおかぜ作業所

職員 榎田 理恵さん

「フルートと自分」

趣味はフルートの演奏。中学校の部活をきっかけに始めた趣味だそうです。高校でも演奏を続け、今に至るそうです。TVでもフルートがでるとつい目をやってしまうとか。多様な楽器が参加するオーケストラでも埋もれる事なくその個性を発揮しているフルート。同じように榎田さんも配食グループで活躍しています。

わーくす昭和橋

職員 田口 和良さん

「修理・修繕はおまかせ!」

趣味はバイクに乗ることです。現在バイクで通勤しているので、毎日の通勤が楽しく働く活力にもなっています。ただ、雨の日の通勤は辛いです。。特技は、祖父が大工の棟梁であったこともあり、その血筋からかDIY(物作り)や修理・修繕を得意としています。事業所では田口工務店と呼ばれています。お困り事は、田口工務店までどうぞ!



仲間 山下 智也さん

特技は、水泳です。中学1年の時から7年以上続けており、今年の名古屋市障害者スポーツ大会では、メダルをとりました。コミュニケーションが難しい中、先生の話をよく聞き取り、クロールと背泳ぎを習得しました。智也さんにとって水泳は、運動だけでなく聞き取りの練習にもなっています。今後の目標は、平泳ぎ・バタフライも習得し、4種目のレースに出場する事です。

仲間 支援学校 高等部 2年 土下 航平さん

「僕に限界なんてない!」

趣味は、筋肉トレーニング…いわゆる“筋トレ”です。

中学1年生のころに筋トレの動画を見て、筋肉に憧れ、始めました。

『ボディビルの大会で優勝!』を目標に、トレーニングジムや自宅では自分で考えたメニューに取り組んでいますが、辛いと思う事はなく、これからも『胸筋』を特に鍛えていきたいとのことです。

いつも誰にでも思いやりのある航平君、筋トレで培ったパワーで「人助けがしたい!」と熱く語ってくれました。



さざなみ

職員 満名 陽介さん

はいさ〜い(^o^)/「I Love Baseball」をモットーに、小学1年生から続けている野球は、今も現役バリバリさ〜!!試合では、3番バッターとしてホームランを打ちまくり〜!どんだけ〜!

何をするにも『楽しむこと』を一番大切にしています。生活している中で大変な時もありますよね?! そんな時は、チバリヨ〜精神で目標を達成することや競い合うことで、楽しみに変わり、笑顔で過ごしてるさ〜



# 特集

# 私の趣味・

みなと福祉会の仲間・職員もった個性的な人が多いです。

## イルカ作業所

仲間 東山 キヨ子さん

「編み物が面白くて  
かれこれ40年」

13歳の頃、自分のマフラーを作ったのが初めてでした。工夫したところが上手くできるとおもわず頬が緩んでしまいます。編み物は場所をとらず1人で楽しめる時間が持てます。毛糸も安く購入できるので、つい いろいろな色を集めたくになります。作業所の休憩時間で編んでいると皆から「何作ってるの〜?」とか「上手ーい!」と言ってくれから嬉しくて自信がつきますね♪



職員 畑山 京悟さん

私は服や靴、小物を緑色で揃えるのがとても好きです。

最初は中学生の頃、緑色を見ると目が良くなることを理由に緑色の物を集めていましたが、気付けば好きな色になっていました。今では緑色の服や靴がすぐ欲しくなってしまう困っています。

緑色でオススメの服や靴があったらぜひ教えてください!



職員 安井 まどかさん

「女子会を開きたい!」

私の趣味は、コスメ集めです。特にアイシャドウを集めることに熱中しています。10種類以上のアイシャドウを持っているので、毎朝の気分に合わせてメイクをしています。うろじではメイクやネイルを楽しむ「女子会」を開いていたそうで、今後そういった自分の趣味を生かした活動もしていきたいです。

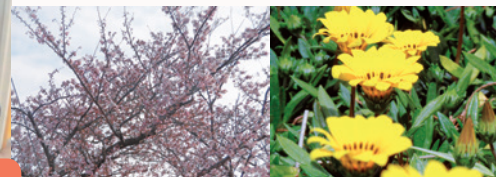
メイクは唯一自分のコンプレックスをチャームポイントに変えることができる魔法の道具なので、大好きです!



仲間 雲井 久さん

「僕は名カメラマン」

雲井さんの趣味は自分のお気に入りのカメラで写真を撮る事です。作業所のイベントや外出の際に持っていき、自分が気に入った風景や楽しい瞬間をカメラに収めることが趣味です。撮った写真は、いつも満足そうに職員や仲間に見せにきてくれます。



(上の花の写真は雲井さんが撮ったものです)

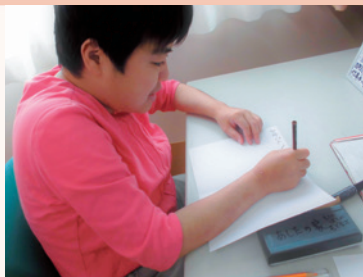
## あしたの家

仲間 遠藤 直美さん

みなさん、こんにちは。私は4月からあしたの家で働いています。

あしたの家に来る前はしおかぜ作業所で働いていました。

しおかぜ作業所では得意な絵を活かして、刺しゅうタオルの模様をデザインする仕事をしていました。イメージ図を見て絵を描き、それに色を付け、スキャナに取り込み、刺しゅうミシンで縫い、商品として刺しゅうタオルが完成した時には、大きな喜びと達成感を感じることが出来ました。



あしたの家に来てからは仕事として絵を描くことは無くなったけど、季節の壁紙作りや催し物のポスター作りで絵を描いています。また、父の日や母の日には絵を描いてプレゼントしたり、職員さんにあげたりしています。とても喜ばれるので、私も嬉しい気持ちになります。

好きな絵は、電車や動物の絵です。電車は名鉄が好きで、動物ではネコが好きです。

鮮やかな色で塗ると気分も晴れやかになるし、電車に乗ってネコを見に行きたいと思います。絵を通してやりたいことや行ってみたい場所に思いを馳せることができるので、これからもたくさん絵を描いていきたいです。

※聞き取りをもとに代筆

# きょうこさん第41回全国大会 in 京都

9月21日、22日に「ともに生きる」ともに創る」のテーマのもと国立京都国際会館をメイン会場に、全国から4000名を超す関係者が集いました。参加した人たちの中から3名の方に感想を寄せていただきました。

## イルカ作業所



(左：木村さん、右：本郷さん)

イルカ作業所仲間の会から、本郷 唯さん、木村麻里さんが参加しました。

2人とも出発前に名刺をパソコンで作成。イルカ作業所の自治会の時間を使って名刺交換の練習もしました。

当日の大交流会では宴会場に集まった全国の利用者と名刺交換をし、埼玉、沖縄、長野、福井…とたくさんの方とつながることができ、名刺交換の際には「来年の全国大会は愛知ですねーがんばって！」といったエールを多くの方からいただきました。

やるまい会で知り合った他事業所の利用者との再会を喜ぶ場面も…！

全国大会を終えた2人は写真や動画、全国大会で配布された資料を用いてイルカ作業所自治会で報告。

他の利用者から「行きたかったな〜」とこづやむ声もありました。

全国の利用者さんと仲良くなれて嬉しかった。来年も参加したい。京都観光が楽しかった。と感想も出されています。(青木 望美)

## しおかぜ作業所



1日目は、国際シンポジウムで障害者権利条約を作るのに貢献されたドン・マッケイ氏

とマリア・ソリダード氏の話聞き、2日目の分科会では「働く」をテーマに選択し、学んできました。

印象に残っていることは「手話が言語という記載についてどういった議論がされたのか」という質問に対し、「会議で手話を使っていたから」といった返答をされたことです。その返答を聞いて、知らないから「当たり前ではない」、知っているから「当たり前」になると感じました。それは当然のことかもしれないですが、そうではない部分もあるため、障害者権利条約を地域に広げていかなければならないと思いました。

他にも多くのことを学ばせていただきました。今後の日々の支援に反映させていきます。ありがとうございます。(井本 真奈美)

# 夢のプロジェクト

## 畑づくりくみはじめる

### いっから始まる奇跡の物語。

みなと福祉会の事業構想から始まった「夢のプロジェクト」。みなと福祉会の事業を進めるために、みんなで夢を語る場「夢のプロジェクト」で出てきた「農業」というキーワード。「食」という誰にでもとも身近なテーマ。その中の一番の根っこと言ってもいい「農業」＝「野菜作り」を始めたいという話ができました。しかし、始めるにあたって大きな問題が：なんと「野菜作り」をするための畑がみなと福祉会にはないのです。まずは、農地を探るところからと話をしていた矢先に、畑を貸してもいいという方が見つかり、あれよあれよという間に「野菜作り」が始まっていきます。当たり前ですが、畑に行くのは仲間と職員。農業学校の出身者や農家の人、農業の経験者は全くいません。経験がないことでの不安もありませんが、目の前に「野菜作り」がやれる畑があるのだから行かない理由はありません。まずはクワを使って畑を耕すところから始めました。仲間たちも初めての経験で戸惑っていると思いきや、作業所の中で仕事しているより生き生きしながら活動に参加している姿が見られました。その後は、畝を作り、種をまいて、草抜きをして、水やり。すくすく成長している作物と芽が出てこない作物といういろいろありますが、日々、畑に行き、お世話をして作物の成長を感じられることが、みんなの「やりがい」につながっていると感じられます。



ジャガイモ

「夢のプロジェクト」が夢で終わらないように、現場の職員がもっとも夢を語れるように頑張っていきたいです。(高井 宜也)